



## 嘘発見器

うそ はっ けん き

アーサー・ビナード

先だって、読者からたいへんな手紙をもらった。「わたしはしょうらいさっかになりたいのでどうしたらさっかになれるかおしえてください」。差出人は、たま子ちゃんという小学二年生。

その質問に、しばらくうろたえてから、アーネスト・ヘミングウェイの言葉を思い出した。「いいものを書くのに欠かせないのは、嘘を見破る能力だ。どんな衝撃にも耐え得る完全内蔵型の嘘発見器。偉大な作家はみなそれを備えていた。創作のレーダーとして機能するのだ」——改めて調べると、ヘミングウェイがノーベル文学賞を受賞した四年後、1958年にインタビューで語ったものだった。

答えになるかどうか……。考えれば考えるほど、たま子ちゃんへの返事よりも、自らのちっぽけな「完全内蔵型嘘発見器」が気になってくる。「どんな衝撃にも耐え得る」状態だろうか……。これからどんな衝撃で試されることになるのか……。ただ、ひとついえるのは、日本語を覚えたことで、ほくの嘘発見器の微々たる性能が、少し高められたと思うことだ。

言語というのは、伝達の道具であると同時に、世界を

見るレンズの役割も果たす。英語の中で生まれ育った者が、「英語眼鏡」を通して世界を眺め、日本語が母語の者は「日本語眼鏡」をかけて、世界を見回している。だが、母語以外のもうひとつの言語を身につければ、眼鏡のかけ替えが可能になるのだ。

例えば、イラク戦争の動きを、英語眼鏡ですっと見ていると、悪役として“the insurgency”がたびたび登場する。眼鏡をかけ替えて、日本語を通して見れば、それが「武装勢力」という存在に変わる。二つの名称は似てはいるが、どこか微妙にずれてもいて、英語のほうが「反乱の暴徒」といった具合に、強く否定しようとする意図が感じられる。そのちょっとした差から出発して、掘り下げていくと、大きな嘘の発見につながる。今のイラクで起こっている運動は“insurgency”でも「武装勢力」でもない。フランス語に由来する片仮名語の「レジスタンス」で呼ばなければおかしい。

作家は結局、言葉選びという作業に人生のかなりの部分を費やすことになる。嘘を見破ってないと、真実を表すのにどの言葉が役立つか、選びようがないのだ。もちろん「嘘発見器」は、作家に限らず、どんな立場の人間にも欠かせないものだが。

(詩人)

- 表紙エッセイ  
**嘘発見器**  
アーサー・ビナード (詩人)
- KC (関西国際センター) 研修生の Nippon リポート 第4回 ..... 3  
**検察庁の仕事体験**
- JF 日本語関連事業紹介 ..... 4  
**『児童・生徒のための日本語わいわい活動集』**  
日本語国際センター専任講師 久保田 美子
- 授業のヒント ..... 6  
**外国語学習に文化理解を取り込む**
- 新聞・雑誌から見る現代日本 第22回 ..... 8  
**NHK なくなっても「困らない」57%**
- 本ばこ (新刊教材・図書紹介) ..... 11
- 日本語・日本語教育を研究する 第28回 ..... 14  
**コミュニケーションのための日本語教育文法**  
大阪府立大学人間社会学部教授 野田 尚史
- 文法を楽しく!! 第4回 ..... 16  
**「は」と「が」(1)**
- にほんごハローワーク 第4回 ..... 18  
**知行合一：日本語を活かし、考えを実現する** セーラ・マリ・カミングス さん  
榊一市村酒造場 取締役 (出身：米国)  
「にほんごハローワーク」は、概要版を本誌と PDF で、詳細版を HTML で掲載しています。

## On the Web [http://www.jpff.go.jp/j/japan\\_j/publish/tsushin/index.html](http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html)

以下の記事は JF のウェブサイトのみにてご覧になれます。

- 授業に役立つホームページ 第13回  
**料理のレシピ**
- 海外日本語教育レポート 第11回  
**多様化するブラジルの日本語教育**  
—国際交流基金サンパウロ日本文化センター講師室の取り組みを中心に—  
三浦 多佳史 (サンパウロ日本文化センター客員講師)

※本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。

## アンケートのお願い

この号から3回にわたり、『日本語教育通信』継続送付に関するアンケートを同封します。これからも続けて『通信』の郵送を希望される方は、必ずこのアンケートに記入して返送するか、あるいは以下のアドレスから回答してください。  
[http://www.jpff.go.jp/j/japan\\_j/publish/tsushin/index.html](http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html)  
2006年12月31日までにご回答がない場合は、ウェブサイト閲覧のご利用のみと理解し、ニューズレターの送付を停止します。なにとぞ、ご協力をお願いします。

### 編集部から

今号の巻頭エッセイには、詩人のアーサー・ビナード氏に登場いただきました。ビナード氏は、日本人なら何気なく見過ごしてしまうような言葉のやりとりや言い回しなどを、鋭い感性と観察力ですくい上げて、日本語で表現して見せてくれます。今回の「嘘発見器」も、母国語のほかに、もうひとつの言語をとことん勉強した人だからこその視点で、ユーモアたっぷりに書き綴っていただきました。

「にほんごハローワーク」では、榊一市村酒造場取締役で嘲酒師のセーラ・マリ・カミングス氏にインタビューしました。セーラ氏のバイタリティ溢れる活動は記事でも紹介されていますが、ビナード氏とセーラ氏に共通するのは、日本語に対する飽くなき探究心から、どんどん表現と活動の幅を広げていっしょにやることです。こんな風に外国語を学び、表現できるようになればいいな、と刺激されます。ぜひ、お二人の世界に触れてみてください。

『日本語教育通信』では、第13号(1993年)から毎号、日本の各界でご活躍の方々に、表紙を飾るエッセイをいただてきましたが、このシリーズは今54号で最後です。次号からは、徐々に編集・発行の中心をウェブサイトに移し、「にほんごハローワーク」もウェブサイトのみの記事になります。日本語教育に役立つ新しいコーナーも始めますので、どうぞお楽しみに。(MI)

### 表紙エッセイストプロフィール

アーサー・ビナード (Arthur Binard)

1967年、米国ミシガン州生まれ。コルゲート大学英米文学部卒。漢字に魅せられ、90年に来日、翻訳や日本語で詩作を始める。第一詩集『釣り上げては』で中原中也賞受賞。エッセイ集に『日本語ほこりほこり』(講談社エッセイ賞受賞)『空からやってきた魚』、絵本に『くうきのかお』、翻訳絵本には『ダンテライオン』『どんなきぶん?』『カーロ、せかいをよむ』『The Family of Fourteen』等。毎週木曜日、朝日新聞の夕刊に「日々の非常口」を連載。ラジオ・パーソナリティーとしても活躍。

# KC研修生の Nipponレポート

(関西国際センター)

## 第4回 検察庁の 仕事体験

このコーナーでは、関西国際センターの日本語研修に参加している  
研修生が研修を通して発見した **Nippon** についてレポートします。



「公務員日本語研修」に参加しているガリナさんは、リトアニアの検察庁 (the Public Prosecutor's Office) で通訳・翻訳の仕事をしています。東京の検察庁を訪問して、検事 (a public prosecutor) と話したり、そこでの仕事を体験してみました。

◀ 検察庁の前で、検事と立会事務官 (a public prosecutor's assistant officer) といっしょに。

### 【日本の検察官はどんな仕事をしますか】

警察



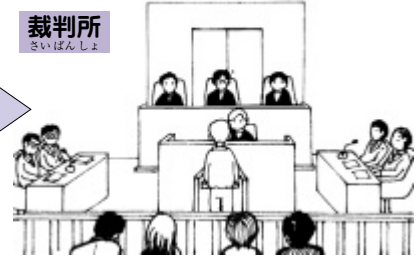
① 事件がおきると警察が犯人を捕まえる。

検察庁



② 検察庁で調べて、裁判をどうかを決める。

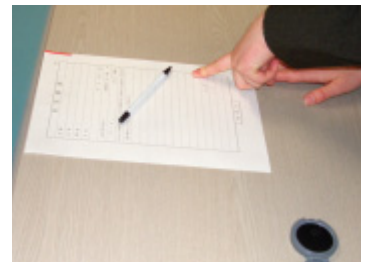
裁判所



③ 裁判をする。

私が犯人の役になって、検事の仕事をシミュレーションしてもらいました。

- ① 検事が犯人にいろいろな質問をします。 ② 立会事務官が質問の記録をとります。 ③ 犯人が記録を読んで、サインします。



私は、検事の通訳をする仕事をして  
いますが、日本ではそのような仕事  
はないそうです。



日本では、指紋 (a fingerprint) を  
サインのかわりに使うことがあるの  
ですね。びっくりしました。



日本の検察庁には、フルタイムの通訳・翻訳者がいないことにおどろきました。  
リトアニアはいろいろな民族がいっしょに生活しているので、通訳・翻訳者が  
必ずいなければなりません。今回の体験で、私の国と日本のちがいを発見する  
ことができました。

▽ 検察庁についてもっと知りたい人は下の URL を見てください。

検察庁チャイルドページ

<http://www.kensatsu.go.jp/>

検察協会ホームページ

<http://www.kensatsu-kyoukai.gr.jp/>

# JF日本語関連事業紹介

にほんごかんれんじぎょうしょうかい

## 児童・生徒のための 日本語わいわい活動集

著者：国際交流基金日本語国際センター

ISBN：4-88319-357-8

出版社：スリーエーネットワーク

判型・ページ数：B5判 275ページ

刊行年月：2005年7月

定価：2,625円(税込)

その他：ワークシート・CD 1枚付



日本語国際センター制作事業課専任講師 久保田美子  
にほんごこくさいせいさくじぎょうかせんにんこうし くほたましこ

国際交流基金日本語国際センターでは、2002年に発行した『中等教育向け初級日本語素材集・教科書を作ろう(改訂版)』の「れんしゅう編」をもとに、『児童・生徒のための日本語わいわい活動集』を作成しました。この活動集は、多様化する児童・生徒の日本語授業を、より生き生きと楽しいものにするを目的とし、全部で105の活動を掲載しています。この活動集の特徴と使い方をご紹介します。

### <活動集の特徴>

#### ①コミュニケーションが目標

児童・生徒が日本語の知識を得るだけでなく、日本語を使って、自分を表現したり、相手を理解したりするコミュニケーションの体験ができるように活動を考えました。

#### ②生徒同士、先生と生徒のコミュニケーション

真のコミュニケーションの体験を可能にするために、先生が質問し、その内容に生徒が答えるという形だけではなく、できるだけ、生徒同士、先生と生徒が双方向的に日本語でコミュニケーションができる活動を取り入れました。

#### ③少人数でも可能な活動

取り出し授業など、学習者数が少ない場合や、先生と生徒の二人だけでも可能な活動をできるだけ取り上げました。

#### ④練習の種類の多様性を重視

一つひとつの活動ができるだけ楽しくできるようにゲームの要素を取り入れたり、聴解、読解、会話、作文などさまざまな技能を使う活動や実際のコミュニケーションに近い活動を取り入れました。

#### ⑤<ワークシート>などの表記に配慮

本文中の<ワークシート>や<会話例>などは、そのまま教師が生徒に見せることができるよう、使用漢字は、全て振り仮名をつけました。ただし、活動集ですので、活動の内容や手順の説明は教師が読むことを想定した表記になっています。

#### ⑥<会話例>の文体や自然さに配慮

本文中の<会話例><インタビュー例><発表例>などは、基本的に丁寧体のものを載せましたが、後半の

B「総合的な活動」では、友達同士の話し方なども載せています。

## <活動集の構成>

A「語彙や文型の定着をはかるための活動」が70項目、B「総合的な活動」が35項目あります。A「語彙や文型の定着をはかるための活動」では、数字や動詞の活用形を覚えるためのビンゴゲームや、歌、イラストを利用した文型練習、インフォメーションギャップを利用した活動、インタビュー活動など様々な形の基本練習が載っています。B「総合的な活動」では、Aで学習したことが応用できるようになっていて、「自己紹介」「健康チェック」など目的のある言語行動や、日本事情に関する説明や昔話などの読み物、テーマをもとにディスカッションするものなど、複数の機能を組み合わせて課題を達成できるような活動を集めました。105の活動のうち、30の活動は付属CDを使って行う活動です。

## <各課の構成>

36課を例に、課の構成について説明します。

**活動の内容：**  
この課の活動概要やねらいが書いてあります。

**バリエーション：**  
この課の活動の応用例を載せました。生徒に合わせて利用できます。

**会話例(発表例、CDスクリプトなど)：**  
生徒にそのまま見せることができよう、漢字や振り仮名、文字の大きさなど配慮しました。そのまま使うことができます。

**A36 高橋君はバスケットボールをしています**

**活動の内容**  
絵を見て人の行動や服装を説明する。説明を聞いてどの人が当てる。

**学習項目**  
●Vています


**手順**  
1. ペア(生徒同士、または教師と生徒)になって、それぞれ<ワークシートA>または<ワークシートB>を得つ。  
2. <会話例>のようにだれが何をしているか<ワークシート>の内容を説明し合う。(ワークシートは見せ合わない。)  
3. お互いにワークシート>の人の名前が全部わかったら、ワークシート>を見せ合って、答えを確認する。

**バリエーション**  
①口頭で説明する代わりに、紙に書いて、交換する。  
②ワークシートA>の人には「高橋・山田・伊藤・ヤマ・鈴木」、ワークシートB>の人には「林・森・田中・ルイス・佐藤」という人の名前を書いた紙を渡し、どの人か尋ねるようにさせる。  
例) A: 鈴木さんは何の人ですか。  
B: 鈴木さんはバスケットボールをしています。  
A: 10番の人ですか。  
B: はい、そうです。


**先生へ**  
●<会話例>の「～ています」は、動作の継続を表す場合(行動の説明)と、動作の結果の継続を表す場合(服装の説明)とが交じっている。生徒の学習段階によっては、どちらか一方に絞って練習してもよい。

**会話例**  
B: 高橋君は、バスケットボールをしています。  
A: 高橋君は、4番の人ですか。  
B: はい、そうです。  
A: 田中さんは、眼鏡をかけています。  
B: 田中さんは、1番の人ですか。  
A: いいえ、ちがいます。

**ワークシートA**



**ワークシートB**



**手順：**  
活動の手順がわかりやすく書いてあります。

**先生へ：**  
先生に参考にしてほしい情報や注意してほしい点を書いてあります。

**ワークシート(イラストなど)：**  
活動に必要なワークシートやイラストを生徒が見やすいように作成しました。

この活動集を使って、少人数のクラスでも「わいわい」楽しい授業が実現することを心から願っています。お使いになっての感想やご意見をぜひお聞かせください。([日本語教育通信]編集部: jfnckt@jpf.go.jp)

# 授業のヒント

今回と次回の2回で、日本語授業にどのよう  
に文化理解を取り込むことができるか、具体的な例を紹介し  
ます。

## テーマ 外国語学習に文化理解を取り込む

<b>目的</b> もくてき
日本語学習に文化理解が必要であることを知る。 日本語と自国の文化の共通点と相違点に気づく。 異文化に対応できる力(異文化間能力)を育てる。
<b>学習者のタイプ</b> がくしゅうしゃ
初級以上
<b>クラスの数</b> にんずう
何人でも

## ◆日本語学習と文化理解

多くの国や地域で、外国語学習の目的のひとつに文化理解が挙げられるようになりました。外国語学習が異文化理解や異文化間能力の養成に役に立つと考えられているからでしょう。そして、文化の内容も、歌舞伎や茶道などの伝統的なものだけでなく、日常生活の中で見られる習慣や行動様式、物の見方や考え方などを含めて考えられるようになりました。

外国語を学ぶとき、言葉と一緒に文化も学んでいます。たとえば、「いただく」や「いらっしゃる」という敬語が適切に使えるようになるためには、これらの言葉の意味や使い方を知っているだけでは不十分です。適切に使うために必要なのは言葉の知識だけでなく、言葉を使う場面の人間関係や話題などを判断する能力も含まれます。人間関係の理解や、どんな話題の時に敬語を使ったらいいかを理解することは、文化理解です。

外国語の授業では、言葉の学習を通して積極的にその国の文化に接触させることができます。異文化接触を通してさまざまな行動様式や価値観があることに気づかせ、自分と異なる文化を受容する姿勢を育てることを考えたと思います。自分たちとの違いを優劣で評価することがないように、また、珍しい特別なものだと片付けることがないように、自分たちの文化と何が違うのか、また、共通する部分は何かを考える機会を作るといいでしょう。違って見えるものに共通点が見つけられれば、親しみ

を持つことができます。同じように見えるけれど細かく見ると違っていることがわかったら、興味や関心を強く持つことができるのではないのでしょうか。

異文化を理解するための活動を通して、複数の視点からものごとを見る、すぐには理解できないことに会ったときに少し立ち止まって考える、といった力をつけたいですね。それが異文化間能力の養成につながるのではないのでしょうか。

## ◆文型練習に文化的要素を取り込む

文化理解のための学習は、そのために特別に時間を設けて扱うこともできますが、普段の言語学習の時間に、例えば文型などの練習をするときにも文化理解を促すことができます。その例を紹介します。

**文型：(いつ) (人) に (物) をあげます**

**目標：**自分や家族、地域や国の一般的な贈り物の習慣について話すことができる。

日本の贈り物の習慣について学び、自分たちの習慣と比べる。

### 活動：

①基本的な文型練習の後で、タスクシートAを配る。

### <タスクシートA>

いつ (どんなとき)	だれに	なにを
例) 友だちの誕生日	友だち	カード

②まず一人でシートに記入し、次にグループで報告し合い、共通点と相違点があることを確認する。

③さらに、クラス全体でグループの結果を報告する。共通するもの、個人によって違いがあるものを確認する。

④日本の贈り物の習慣と比較するために、教師が情報を提供する(タスクシートB)。このとき、すべての情報を記入せず、教師のヒントを聞いて穴埋めができるようにしておいてもよい。そして、自分たちの習慣と

の共通点と相違点について、考えを述べ合う。学習者のレベルによっては、この部分を母語で行ってもよい。

<タスクシートB>日本の贈り物の習慣

いつ (どんなとき)	だれに	なにを
1月1日 (正月) がついついたち しゅうがつ	子どもたち こ	お年玉 (お金) としだま かね
2月14日 (バレンタインデー) がつ か (ばれんたいんでー)	好きな男の子 す おとこ こ	チョコレート
お見舞い みまい	病気/けがをした人 びょうき ひと	花、お菓子、 かし 果物、など くだもの
母の日 (5月第二日曜日) はは ひ (ごがつにちようび)	母 はは	赤いカーネーション あか

◆会話に表れる日本の文化に気づく

日本人に「また来てくださいね」と言われて、数日後、訪問したら驚かされてしまった、という話があるように、会話の中に、それぞれの文化の習慣や価値観が表れることがあります。日本語で話すときは、外国人でも日本の言語習慣で話さなければならぬわけではありません。しかし、日本人の言動を理解し、日本人と円滑なコミュニケーションをするためには、このような言語習慣を理解し、使えるようにしておいたほうが良いでしょう。

ここではほめられたときの答え方を例にみてみましょう。

<ほめる/謙遜する>

A: Bさんは絵が上手ですね。  
B: いいえ、それほどでもありません。

目標: 相手のことをほめることができる/ほめられたときに謙遜して答えることができる。

会話の中にも文化によって違う習慣があることを知り、日本の習慣と自分たちの習慣を比べる。

活動:

①イラストを見ながら、A、Bに入る言葉を日本語または母語で考える。「～が上手です」の文型の導入がまだの時は、導入・練習をする。

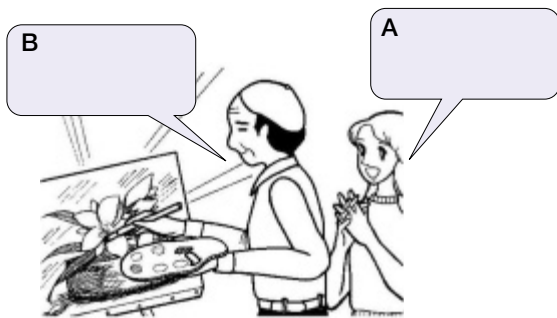


イラスト:「みんなの教材サイト」より

- ②Bの「いいえ、それほどでもありません。」の意味を確認し、このような答え方を母語でもするか、するとしたらどんな時か考える。
- ③その他の自分がほめられる例、自分の家族についてほめられる例を出し、自国の表現と比べる。

A: Bさんは日本語が上手ですね。  
B: いいえ、まだまだです。

A: (Bさんの) お嬢さん、ピアノがお上手ですね。  
B: いいえ、とんでもない。

④さまざまな事柄についてほめる、謙遜して答える練習をする。

⑤「自慢すること」「謙遜すること」について、自分はどうか、他の人はどうか、考えを述べ合う。

⑥日本人とのコミュニケーションで、このような場面になったらどうするか、考えを述べ合う。

留意点:

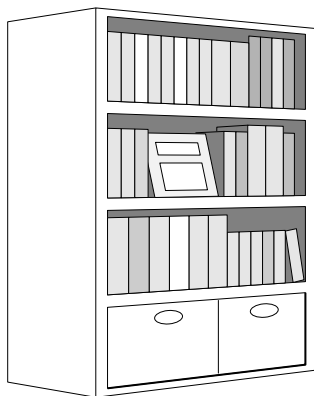
- 日本人は必ず謙遜する、自慢しない、という一般論にならないように気をつける。
- 同じ文化の人でも、考えや行動に違いがあることを認める。
- 日本人と日本語で話す場合は、日本人の言語習慣に合わせてなければならないという考えにならないよう注意する。

この「ほめる/謙遜する」の言語習慣が自国のものとよく似ている場合は、違いについてことさらに取り上げる必要はありません。文化差が現れやすいものとしては、依頼や誘いに対する断り、反対意見の言い方、電話での会話、挨拶の表現、話題の選択などがあります。みなさんの学習者に合わせて文化差を考慮することができる会話練習をしてみてください。

参考文献

「海外の初中等教育における日本語教育と〈文化リテラシー〉」『21世紀の『日本事情』3号(2001)矢部まゆみ』  
“Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century” (1999) National Standards in Foreign Language Education Project  
[http://www.jpf.go.jp/j/japan\\_j/oversea/kunibetsu/syllabus/pdf/sy\\_honyaku\\_9-1usa.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-1usa.pdf)  
[http://www.jpf.go.jp/j/japan\\_j/oversea/kunibetsu/syllabus/pdf/sy\\_honyaku\\_9-2USA.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-2USA.pdf)  
『文化を取り入れた日本語の授業アイデアコンテスト作品集』第1~3回(1997~2000)国際文化フォーラム

このコーナーの担当者: 阿部洋子、中村雅子 (日本語国際センター専任講師)  
読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。



# 本ばこ

## —新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている则便利な図書・資料」などを取り上げます。

※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

### 日本語指導と教科・総合的学習の係のために

### 外国人児童の「教科と日本語」シリーズ

#### データ

1 国語：今澤 悌、齋藤ひろみ、池上摩希子、算数：池上摩希子、理科：大蔵守久、社会：齋藤ひろみ、解説：佐藤郡衛、齋藤ひろみ、高木光太郎 2 スリーエーネットワーク（〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3（松栄ビル）TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL. http://www.3anet.co.jp 3 国語2005年10月20日、他2005年4月20日 4 4-88319-以下 国語341-1、算数342-X 理科343-8 社会344-6 解説340-3 5 全てB5判 国語：157、算数135、理科129、社会150、解説168ページ 6 解説1,575円 他各1,890円

「発信」という流れで授業を組み立てることを提案しています。

「教科志向型」カリキュラムは、各教科の学習に日本語で参加できる力を育成することを目標としています。教室の学習では、「比較する」「分類する」「推測する」「関連付ける」「統合する」などのような「思考を支えることばの力」が重要な要素になります。「書きことば」の力を高めていくことも大切です。各教科に特有の学習の仕方に慣れることも必要です。「教科志向型」では、子どもたちが各教科の典型的な学習の流れを実際に経験することを基本構造としています。



のやりとりの例も示されており、海外のイマージョン・クラスや補習校の授業でも活用できるでしょう。教科の枠を超え、いろいろな教科の要素を盛り込んだ統合的な活動を組み立てることもできます。活動例ごとのワークシート・教材例は、拡大コピーをすれば、そのまま活用できるものが多く、まさに実践のためのリソースが詰まった本と言えます。「JSL算数科」と「JSL社会科」のワークシートをサンプルとしてあげました。見てください

#### ▽海外の教室で

「トピック型」カリキュラムの活動例は、海外の、特に中等教育機関で「内容重視の日本語教育」を考えたい場合のヒントになります。「教科志向型」カリキュラムの活動例は、教師と子ども

このシリーズは、文部科学省のプロジェクト「学校におけるJSLカリキュラムの開発（小学校編）」の考え方と実践例をまとめたものです。日本語を第二言語（Japanese as a Second Language）として学んでいる子どもたちが学校の教科学習に日本語を使って参加できるように支援することを目指しています。日本語が苦手な子どもたちのために「調べる」「観察する」「比べる」などの活動をどのように授業の中に組み込んでいけばいいかが、解説やQ&A、活動例などを通して具体的に説明されています。「解説編」と「JSL国語科」「JSL算数科」「JSL理科」「JSL社会科」、計5冊からなっています。

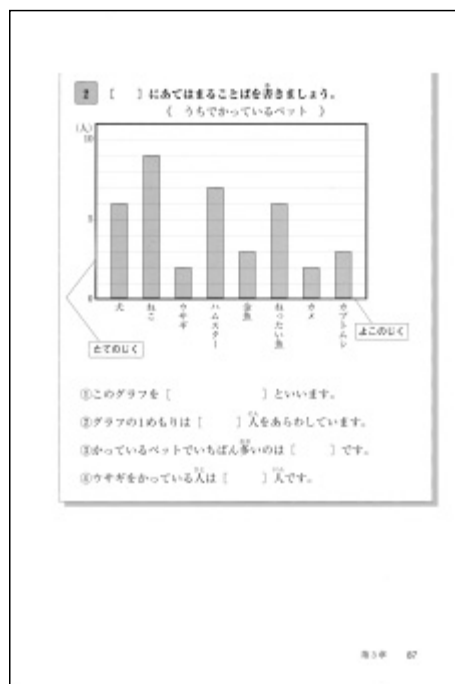
#### ▽2つのカリキュラム

JSLカリキュラムは2つの異なるタイプのカリキュラムからなっています。

「トピック型」カリキュラムは、教科学習の基本となる活動に参加する力を高めることを目指しています。子どもたちの興味関心に合わせてトピックを設定し、自分の「体験」を日本語で表現し、それを出発点にして他の子どもたちや教師とともに「探求」を進め、その成果を日本語で



「JSL 社会科」67 ページ



「JSL 算数科」87 ページ

詳しい説明、描写、叙述ができるようになるために

『日本語 上級話者への道—きちんと伝える技術と表現—』

データ

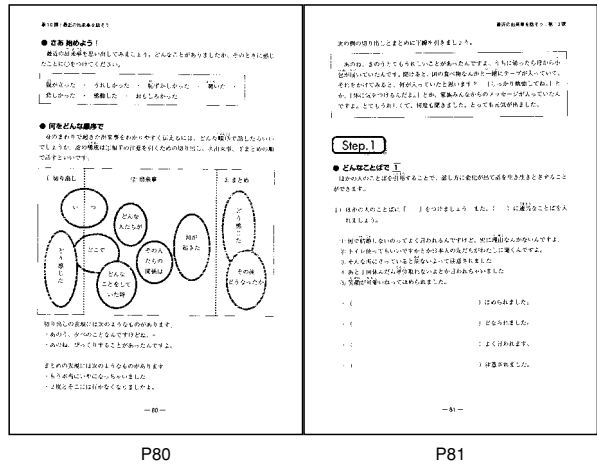
1 荻原雅佳子、増田眞佐子、齊藤眞理子、伊藤とく美 2 スリーエーネットワーク (P.11のデータ参照) 3 2005年7月29日 4 4-88319-355-1 5 B5判107ページ 6 2,310円 7 別冊：活動資料集、解答例付

簡単な会話はできるが、「自分が興味を持つていることについて詳しく説明できる」または「楽しく会話を続けられる」ようになりたいなどと思っている人は多いと思います。本書はそのような人が話す技術を学ぶための教材です。この教材は、ACTFL-OPI (全米外国語教育協会 - 口頭日本語能力インタビュー試験) の言語運用能力基準を参考にして、上級話者となるための目標を「個人的、一般的な話題について詳細な説明、描写、叙述ができること」としています。そして、具体的な目標を明示して意識化し、話す練習を順に重ねていくことにより、中級話者が上級話者へと力を伸ばすことを目指しています。

教材は12課から構成され、課のタイトル「なぐした体験を話そう」「動きの順序を説明しよう」「ストーリーを話そう」などが示すように、各課にコミュニケーション上の目標を掲げています。

各課の構成を10課「最近の出来事を話そう」を例に見てみましょう。はじめに、課の目標として①コミュニケーションの機能上の目標：「出来事をわかりやすく伝える」②ストラテジー・談話構成・文法上の目標：「引用を効果的に使う」③コミュニケーションの人間関係上の目標：「感情を生ききと伝えて共感を得る」の3種の目標が示されます。そして、「さあ始めよう！」で最近の出来事を思い出させ、次に「何をどんな順序で」で出来事をわかりやすく伝えるための談話構成を意識させます。続く「STEP

1」では「どんなことばで」で話し方に変化を付ける方法を学び、「やってみよう」で、実際に話す練習をします。「STEP 2」でも同様に練習を重ねます。巻末に資料集と解答例が付いています。



日本語教育の広く、奥深く、楽しい世界を紹介

『成長する教師のための日本語教育ガイドブック』(上)(下)

データ

1 川口義一、横溝紳一郎 2 ひつじ書房 (〒112-0002 東京都文京区小石川5-21-5) TEL. 03-5684-6871 FAX.03-5684-6872 URL.http://www.hituzi.co.jp 3 上下巻とも2005年5月21日 4 上4-89476-251-X、下4-89476-252-8 5 上A5判296ページ、下A5判328ページ 6 各2,940円

この教材は、日本語教育実習を受ける／受けている人、日本語教育について、より多くの知識を吸収したい人、自分の教え方を向上させるヒントがほしい人、自分の教え方をみづみづなしてみたい人、日本語教育の新たなトレンドについて学んでみたい人を読者として想定しています。

上・下2巻に分かれ、上巻の序章、第1章では、日本語教師としてまず自分自身の学習観や教育観を振り返り、教師としてどのような姿勢で学び、成長していくべきなのか考えさせる内容となっています。その後、教材の分析や教案検討、日本語授業の実際(4技能の指導：理論と実践、発音指導、導入と文法説明)、教材・教具・教育機器、教室内のインターアクションな

ど、授業を準備し、実践する上で必要な技術や考え方について具体的に触れられています。第5章(最終章)では、再び教師の姿勢を問題にし、教師の「成長モデル」を提示し、「化石化教師」にならないためのアドバイスが載っています。

著者自身も述べているように、この本では、「評価」と「中・上級の教え方」は取り上げられていませんが、それ以外のトピックに関しては広範囲に網羅的に取り上げられています。また、決して技術や知識を与えることだけが目的ではなく、それを使って教師は何をするのか、教師

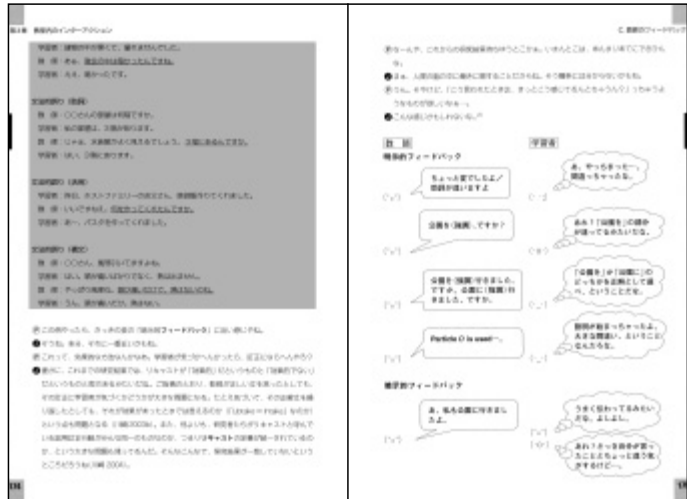
の役割はいったい何なのかを常に問いかける内容になっています。文字通り「成長する」教師になることが目指されていると言えるでしょう。

この本では、著者兩名がJohnとPaulとして登場し、問答形式で話が進められるユニークな構成になっています。著者兩名の楽しい会話



を読み進めるうちに、自然に一つの考え方にとられることなく、様々な考えがあることが理解できるようになっています。

また、豊富な参考文献がリストアップされていますので、さらに勉強を進めたい人にとっても有益です。



練習を重ねて自然な日本語を身につけよう

『日本語中級からのスキルバランス ワークブック』

データ

1 姫野昌子、村田年、伊東祐郎、藤森弘子  
2 発行：財団法人放送大学教育振興会（〒105-8501 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル）TEL.03-3502-2750 FAX.03-3592-2482  
URL: http://www.ua-book.or.jp/ 発売：凡人社（〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F）TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL: www.bonjinsha.com 3 2005年4月1日 4 4-89358-589-4 5 B5判132ページ 6 各1,890円 7 C/D、解答・スクリプト付き

「ゴロゴロ」「ピーピー」「チントンシャン」、これらの言葉は日本語で何を表しているのでしょうか。「ゴロゴロ」は雷の鳴る音で、「ピーピー」は携帯電話の着信音、そして「チントンシャン」は三味線の音を表しています。日本語はこのような擬音語の豊富な言語です。

本教材は上記のような日本の日常生活の中にも扱っているのが特徴と言えるでしょう。日本語の学習者にとってもこのような擬音語を知ることによって、日本語の表現力をより豊かにすることができます。

本教材は中級レベルの学習者の日本語力のを

ばすために作られ、次の三つの部分で構成されています。I「男女の会話」、II「暮らしの中のサウンド」、III「街角インタビュー」。

Iでは、「写真」「結婚」「忘れ物」など日常生活でよく出てくる14の話題をとりあげています。

自然な話しことばをマスターすると同時に、男性と女性の話し方の違いや会話文の特徴(省略、順番の変化、縮約形など)を理解することもできます。

IIは、あるまとまった文章を聞いて理解するための勉強です。「ウグイス」「鈴虫」「雷」など14

の自然の音や鳴き声のテーマを扱っているのが、日本の自然や社会、文化を理解することにも役立つでしょう。

IIIでは、老若男女、いろいろな人の実際の話し方を勉強することができます。

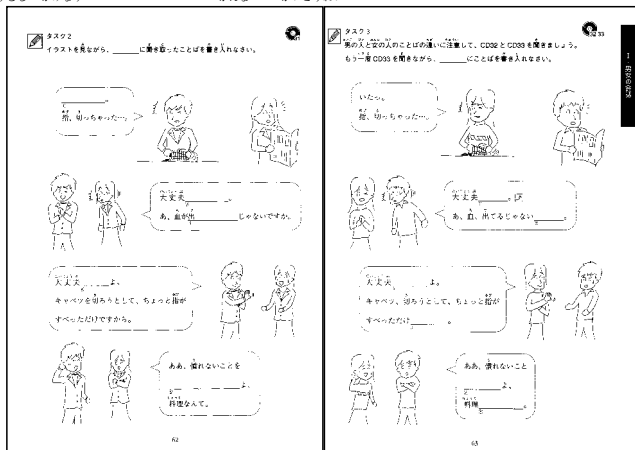
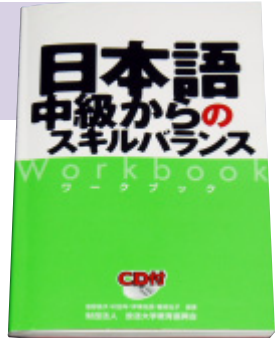
また、インタビューの形式なので、いろいろなインタビューの答えを通して、日本人の考え方をすることも

できるので

う。各話題はすべてタスク形式です。教材付属のCDを聞きながら質問に答えるタスクや言い換え練習のタスクが中心です。Iでは、イラストも多く使われているため、イラストからも答えのヒントが得られるでしょう。

巻末に解答例やスクリプトが

ついています。



読解授業に仲間との協働学習を取り入れてみよう

『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』

データ

1 舘岡洋子 2 東海大学出版会（〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会内）TEL.0463-79-3921 FAX.0463-69-5087 URL: http://www.press.tokai.ac.jp/ 3 2005年3月31日 4 4-486-01666-1 5 A5判198ページ 6 2,940円

皆さんは学習者として次のような経験をしたことがないでしょうか。ちょっと難しいテキストを渡されて授業の中で読まなければならない。内容を理解できるかどうか自信が無い。独りで読み進めるのは不安だ。ところが、クラスメイトと分からないところをお互いに説明し合いながら読むと、だんだん内容がはっきりと読み取れるようになる。独りで読むよりも楽しくて、知識が増えたような感じがする...

そのような経験がある人にも無い人にも、著者は、仲間と学習者との対話を通して文章を読む活動「ピア・リーディング」を提案しています。「ピア」とは「仲間」のことです。

話す力を伸ばすためには人と会話をするこ

とが大切だということは簡単に分かるかもしれませんが、「読む」という個人的な作業を、なぜ仲間との協働作業にすることが効果的な学習になるのでしょうか。

著者はこの疑問に答えるために、次のように本書を構成しています。第一章「読むこと」とはどのような活動なのかを先行研究の成果からまとめる。第二章「読むことに優れた日本語学習者は、独りで読む場合でも、自分が持っている知識をもとに、自問自答を繰り返しながら読んでいくことを明らかにする。第三章「二章ま

で明らかになったことを元にした実践の報告。つまり、学習者同士が助け合い、対話をしながら読解をするピア・リーディングの具体的な方法と効果を述べる。

この本を読むときも、仲間の先生達と一緒に、興味のあるところからピア・リーディングすることを勧めます。読解の授業で悩んでいる現場の教師には、力強いヒントが得られるでしょう。



目次	目次 ix	目次 x	目次 xi	目次 xii
1 序 1	1 序 1	1 序 1	1 序 1	1 序 1
2 1. はじめに 2	2 1. はじめに 2	2 1. はじめに 2	2 1. はじめに 2	2 1. はじめに 2
3 2. 本書の構成 3	3 2. 本書の構成 3	3 2. 本書の構成 3	3 2. 本書の構成 3	3 2. 本書の構成 3
4 3. 本書の特色 4	4 3. 本書の特色 4	4 3. 本書の特色 4	4 3. 本書の特色 4	4 3. 本書の特色 4
5 4. 本書の構成 5	5 4. 本書の構成 5	5 4. 本書の構成 5	5 4. 本書の構成 5	5 4. 本書の構成 5
6 5. 本書の構成 6	6 5. 本書の構成 6	6 5. 本書の構成 6	6 5. 本書の構成 6	6 5. 本書の構成 6
7 6. 本書の構成 7	7 6. 本書の構成 7	7 6. 本書の構成 7	7 6. 本書の構成 7	7 6. 本書の構成 7
8 7. 本書の構成 8	8 7. 本書の構成 8	8 7. 本書の構成 8	8 7. 本書の構成 8	8 7. 本書の構成 8
9 8. 本書の構成 9	9 8. 本書の構成 9	9 8. 本書の構成 9	9 8. 本書の構成 9	9 8. 本書の構成 9
10 9. 本書の構成 10	10 9. 本書の構成 10	10 9. 本書の構成 10	10 9. 本書の構成 10	10 9. 本書の構成 10
11 10. 本書の構成 11	11 10. 本書の構成 11	11 10. 本書の構成 11	11 10. 本書の構成 11	11 10. 本書の構成 11
12 11. 本書の構成 12	12 11. 本書の構成 12	12 11. 本書の構成 12	12 11. 本書の構成 12	12 11. 本書の構成 12
13 12. 本書の構成 13	13 12. 本書の構成 13	13 12. 本書の構成 13	13 12. 本書の構成 13	13 12. 本書の構成 13
14 13. 本書の構成 14	14 13. 本書の構成 14	14 13. 本書の構成 14	14 13. 本書の構成 14	14 13. 本書の構成 14
15 14. 本書の構成 15	15 14. 本書の構成 15	15 14. 本書の構成 15	15 14. 本書の構成 15	15 14. 本書の構成 15
16 15. 本書の構成 16	16 15. 本書の構成 16	16 15. 本書の構成 16	16 15. 本書の構成 16	16 15. 本書の構成 16
17 16. 本書の構成 17	17 16. 本書の構成 17	17 16. 本書の構成 17	17 16. 本書の構成 17	17 16. 本書の構成 17
18 17. 本書の構成 18	18 17. 本書の構成 18	18 17. 本書の構成 18	18 17. 本書の構成 18	18 17. 本書の構成 18
19 18. 本書の構成 19	19 18. 本書の構成 19	19 18. 本書の構成 19	19 18. 本書の構成 19	19 18. 本書の構成 19
20 19. 本書の構成 20	20 19. 本書の構成 20	20 19. 本書の構成 20	20 19. 本書の構成 20	20 19. 本書の構成 20
21 20. 本書の構成 21	21 20. 本書の構成 21	21 20. 本書の構成 21	21 20. 本書の構成 21	21 20. 本書の構成 21
22 21. 本書の構成 22	22 21. 本書の構成 22	22 21. 本書の構成 22	22 21. 本書の構成 22	22 21. 本書の構成 22
23 22. 本書の構成 23	23 22. 本書の構成 23	23 22. 本書の構成 23	23 22. 本書の構成 23	23 22. 本書の構成 23
24 23. 本書の構成 24	24 23. 本書の構成 24	24 23. 本書の構成 24	24 23. 本書の構成 24	24 23. 本書の構成 24
25 24. 本書の構成 25	25 24. 本書の構成 25	25 24. 本書の構成 25	25 24. 本書の構成 25	25 24. 本書の構成 25
26 25. 本書の構成 26	26 25. 本書の構成 26	26 25. 本書の構成 26	26 25. 本書の構成 26	26 25. 本書の構成 26
27 26. 本書の構成 27	27 26. 本書の構成 27	27 26. 本書の構成 27	27 26. 本書の構成 27	27 26. 本書の構成 27
28 27. 本書の構成 28	28 27. 本書の構成 28	28 27. 本書の構成 28	28 27. 本書の構成 28	28 27. 本書の構成 28
29 28. 本書の構成 29	29 28. 本書の構成 29	29 28. 本書の構成 29	29 28. 本書の構成 29	29 28. 本書の構成 29
30 29. 本書の構成 30	30 29. 本書の構成 30	30 29. 本書の構成 30	30 29. 本書の構成 30	30 29. 本書の構成 30
31 30. 本書の構成 31	31 30. 本書の構成 31	31 30. 本書の構成 31	31 30. 本書の構成 31	31 30. 本書の構成 31
32 31. 本書の構成 32	32 31. 本書の構成 32	32 31. 本書の構成 32	32 31. 本書の構成 32	32 31. 本書の構成 32
33 32. 本書の構成 33	33 32. 本書の構成 33	33 32. 本書の構成 33	33 32. 本書の構成 33	33 32. 本書の構成 33
34 33. 本書の構成 34	34 33. 本書の構成 34	34 33. 本書の構成 34	34 33. 本書の構成 34	34 33. 本書の構成 34
35 34. 本書の構成 35	35 34. 本書の構成 35	35 34. 本書の構成 35	35 34. 本書の構成 35	35 34. 本書の構成 35
36 35. 本書の構成 36	36 35. 本書の構成 36	36 35. 本書の構成 36	36 35. 本書の構成 36	36 35. 本書の構成 36
37 36. 本書の構成 37	37 36. 本書の構成 37	37 36. 本書の構成 37	37 36. 本書の構成 37	37 36. 本書の構成 37
38 37. 本書の構成 38	38 37. 本書の構成 38	38 37. 本書の構成 38	38 37. 本書の構成 38	38 37. 本書の構成 38
39 38. 本書の構成 39	39 38. 本書の構成 39	39 38. 本書の構成 39	39 38. 本書の構成 39	39 38. 本書の構成 39
40 39. 本書の構成 40	40 39. 本書の構成 40	40 39. 本書の構成 40	40 39. 本書の構成 40	40 39. 本書の構成 40
41 40. 本書の構成 41	41 40. 本書の構成 41	41 40. 本書の構成 41	41 40. 本書の構成 41	41 40. 本書の構成 41
42 41. 本書の構成 42	42 41. 本書の構成 42	42 41. 本書の構成 42	42 41. 本書の構成 42	42 41. 本書の構成 42
43 42. 本書の構成 43	43 42. 本書の構成 43	43 42. 本書の構成 43	43 42. 本書の構成 43	43 42. 本書の構成 43
44 43. 本書の構成 44	44 43. 本書の構成 44	44 43. 本書の構成 44	44 43. 本書の構成 44	44 43. 本書の構成 44
45 44. 本書の構成 45	45 44. 本書の構成 45	45 44. 本書の構成 45	45 44. 本書の構成 45	45 44. 本書の構成 45
46 45. 本書の構成 46	46 45. 本書の構成 46	46 45. 本書の構成 46	46 45. 本書の構成 46	46 45. 本書の構成 46
47 46. 本書の構成 47	47 46. 本書の構成 47	47 46. 本書の構成 47	47 46. 本書の構成 47	47 46. 本書の構成 47
48 47. 本書の構成 48	48 47. 本書の構成 48	48 47. 本書の構成 48	48 47. 本書の構成 48	48 47. 本書の構成 48
49 48. 本書の構成 49	49 48. 本書の構成 49	49 48. 本書の構成 49	49 48. 本書の構成 49	49 48. 本書の構成 49
50 49. 本書の構成 50	50 49. 本書の構成 50	50 49. 本書の構成 50	50 49. 本書の構成 50	50 49. 本書の構成 50
51 50. 本書の構成 51	51 50. 本書の構成 51	51 50. 本書の構成 51	51 50. 本書の構成 51	51 50. 本書の構成 51
52 51. 本書の構成 52	52 51. 本書の構成 52	52 51. 本書の構成 52	52 51. 本書の構成 52	52 51. 本書の構成 52
53 52. 本書の構成 53	53 52. 本書の構成 53	53 52. 本書の構成 53	53 52. 本書の構成 53	53 52. 本書の構成 53
54 53. 本書の構成 54	54 53. 本書の構成 54	54 53. 本書の構成 54	54 53. 本書の構成 54	54 53. 本書の構成 54
55 54. 本書の構成 55	55 54. 本書の構成 55	55 54. 本書の構成 55	55 54. 本書の構成 55	55 54. 本書の構成 55
56 55. 本書の構成 56	56 55. 本書の構成 56	56 55. 本書の構成 56	56 55. 本書の構成 56	56 55. 本書の構成 56
57 56. 本書の構成 57	57 56. 本書の構成 57	57 56. 本書の構成 57	57 56. 本書の構成 57	57 56. 本書の構成 57
58 57. 本書の構成 58	58 57. 本書の構成 58	58 57. 本書の構成 58	58 57. 本書の構成 58	58 57. 本書の構成 58
59 58. 本書の構成 59	59 58. 本書の構成 59	59 58. 本書の構成 59	59 58. 本書の構成 59	59 58. 本書の構成 59
60 59. 本書の構成 60	60 59. 本書の構成 60	60 59. 本書の構成 60	60 59. 本書の構成 60	60 59. 本書の構成 60
61 60. 本書の構成 61	61 60. 本書の構成 61	61 60. 本書の構成 61	61 60. 本書の構成 61	61 60. 本書の構成 61
62 61. 本書の構成 62	62 61. 本書の構成 62	62 61. 本書の構成 62	62 61. 本書の構成 62	62 61. 本書の構成 62
63 62. 本書の構成 63	63 62. 本書の構成 63	63 62. 本書の構成 63	63 62. 本書の構成 63	63 62. 本書の構成 63
64 63. 本書の構成 64	64 63. 本書の構成 64	64 63. 本書の構成 64	64 63. 本書の構成 64	64 63. 本書の構成 64
65 64. 本書の構成 65	65 64. 本書の構成 65	65 64. 本書の構成 65	65 64. 本書の構成 65	65 64. 本書の構成 65
66 65. 本書の構成 66	66 65. 本書の構成 66	66 65. 本書の構成 66	66 65. 本書の構成 66	66 65. 本書の構成 66
67 66. 本書の構成 67	67 66. 本書の構成 67	67 66. 本書の構成 67	67 66. 本書の構成 67	67 66. 本書の構成 67
68 67. 本書の構成 68	68 67. 本書の構成 68	68 67. 本書の構成 68	68 67. 本書の構成 68	68 67. 本書の構成 68
69 68. 本書の構成 69	69 68. 本書の構成 69	69 68. 本書の構成 69	69 68. 本書の構成 69	69 68. 本書の構成 69
70 69. 本書の構成 70	70 69. 本書の構成 70	70 69. 本書の構成 70	70 69. 本書の構成 70	70 69. 本書の構成 70
71 70. 本書の構成 71	71 70. 本書の構成 71	71 70. 本書の構成 71	71 70. 本書の構成 71	71 70. 本書の構成 71
72 71. 本書の構成 72	72 71. 本書の構成 72	72 71. 本書の構成 72	72 71. 本書の構成 72	72 71. 本書の構成 72
73 72. 本書の構成 73	73 72. 本書の構成 73	73 72. 本書の構成 73	73 72. 本書の構成 73	73 72. 本書の構成 73
74 73. 本書の構成 74	74 73. 本書の構成 74	74 73. 本書の構成 74	74 73. 本書の構成 74	74 73. 本書の構成 74
75 74. 本書の構成 75	75 74. 本書の構成 75	75 74. 本書の構成 75	75 74. 本書の構成 75	75 74. 本書の構成 75
76 75. 本書の構成 76	76 75. 本書の構成 76	76 75. 本書の構成 76	76 75. 本書の構成 76	76 75. 本書の構成 76
77 76. 本書の構成 77	77 76. 本書の構成 77	77 76. 本書の構成 77	77 76. 本書の構成 77	77 76. 本書の構成 77
78 77. 本書の構成 78	78 77. 本書の構成 78	78 77. 本書の構成 78	78 77. 本書の構成 78	78 77. 本書の構成 78
79 78. 本書の構成 79	79 78. 本書の構成 79	79 78. 本書の構成 79	79 78. 本書の構成 79	79 78. 本書の構成 79
80 79. 本書の構成 80	80 79. 本書の構成 80	80 79. 本書の構成 80	80 79. 本書の構成 80	80 79. 本書の構成 80
81 80. 本書の構成 81	81 80. 本書の構成 81	81 80. 本書の構成 81	81 80. 本書の構成 81	81 80. 本書の構成 81
82 81. 本書の構成 82	82 81. 本書の構成 82	82 81. 本書の構成 82	82 81. 本書の構成 82	82 81. 本書の構成 82
83 82. 本書の構成 83	83 82. 本書の構成 83	83 82. 本書の構成 83	83 82. 本書の構成 83	83 82. 本書の構成 83
84 83. 本書の構成 84	84 83. 本書の構成 84	84 83. 本書の構成 84	84 83. 本書の構成 84	84 83. 本書の構成 84
85 84. 本書の構成 85	85 84. 本書の構成 85	85 84. 本書の構成 85	85 84. 本書の構成 85	85 84. 本書の構成 85
86 85. 本書の構成 86	86 85. 本書の構成 86	86 85. 本書の構成 86	86 85. 本書の構成 86	86 85. 本書の構成 86
87 86. 本書の構成 87	87 86. 本書の構成 87	87 86. 本書の構成 87	87 86. 本書の構成 87	87 86. 本書の構成 87
88 87. 本書の構成 88	88 87. 本書の構成 88	88 87. 本書の構成 88	88 87. 本書の構成 88	88 87. 本書の構成 88
89 88. 本書の構成 89	89 88. 本書の構成 89	89 88. 本書の構成 89	89 88. 本書の構成 89	89 88. 本書の構成 89
90 89. 本書の構成 90	90 89. 本書の構成 90	90 89. 本書の構成 90	90 89. 本書の構成 90	90 89. 本書の構成 90
91 90. 本書の構成 91	91 90. 本書の構成 91	91 90. 本書の構成 91	91 90. 本書の構成 91	91 90. 本書の構成 91
92 91. 本書の構成 92	92 91. 本書の構成 92	92 91. 本書の構成 92	92 91. 本書の構成 92	92 91. 本書の構成 92
93 92. 本書の構成 93	93 92. 本書の構成 93	93 92. 本書の構成 93	93 92. 本書の構成 93	93 92. 本書の構成 93
94 93. 本書の構成 94	94 93. 本書の構成 94	94 93. 本書の構成 94	94 93. 本書の構成 94	94 93. 本書の構成 94
95 94. 本書の構成 95	95 94. 本書の構成 95	95 94. 本書の構成 95	95 94. 本書の構成 95	95 94. 本書の構成 95
96 95. 本書の構成 96	96 95. 本書の構成 96	96 95. 本書の構成 96	96 95. 本書の構成 96	96 95. 本書の構成 96
97 96. 本書の構成 97	97 96. 本書の構成 97	97 96. 本書の構成 97	97 96. 本書の構成 97	97 96. 本書の構成 97
98 97. 本書の構成 98	98 97. 本書の構成 98	98 97. 本書の構成 98	98 97. 本書の構成 98	98 97. 本書の構成 98
99 98. 本書の構成 99				

# 日本語・日本語 教育を研究する

第28回

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけしています。今回のテーマは〔コミュニケーションのための日本語教育文法〕です。

## コミュニケーションのための日本語教育文法



大阪府立大学人間社会学部教授 野田 尚史

### 1. 日本語教育文法は絶対的なものではない

日本語教育で使われる文法はほぼ決まっています、それに従って教えなければならないと思っている人が多いようです。たとえば、テ形は初級前半で教えるとか、受身は初級後半で教えるといった「常識」です。

しかし、これまでの日本語教育文法は、文の構造だけが重視され、実際のコミュニケーションはあまり重視されなかった時代に考えられたものです。

日本語でのコミュニケーションがうまくできるようにという目的のためには、これまでの教育文法とは違う文法が必要になってきます。これまでの文法を絶対的なものとは思わないで、たとえば次のような方法で、コミュニケーションのための新しい文法を考えてみましょう。

### 2. 日本語教科書の不要な文法項目を洗い出す

日本語教科書を使って、「こんな文法項目を教える必要があるのだろうか」と思ったことはありませんか。そこから出発するのも一つの方法です。

たとえば、初級教科書で、「書け」のような「命令形」や、「書けば」のような「バ形（条件形）」を教えるものがあります。そのようなものを見たとき、「これは必要なのだろうか」と疑問に思い、「初級では要らないのではないか」と考えてほしいということです。

さらに、「なぜこの初級教科書では命令形やバ形を教えることにしているのか」も考えてほしいと思います。その答えは、「動詞の活用形を全部出したい。つまり、Iグループ動詞（五段動詞）では、「書け」や「書けば」のようにエ段（この場合は「け」）を使う活用形も出したいから」ということになるのではないかと思います。これは、日本語の構造をすべて教えたいからであって、コミュニケーションに必要なからではないということです。そこを見抜いてほしいわけです。

### 3. 日本語教科書に必要な文法項目を見つける

一方、コミュニケーションに必要なのに、これまで取り上げられてこなかった文法項目もたくさんあります。

たとえば、誘いを受けたときの断りかたです。先輩から食事に誘われたとします。「ありがとうございます。でも、今晚は行けません。バイトがありますから」というように、構造的に整っている文で答えるのがよいでしょうか。「うーん、ちょっとー、バイトでー」というように、構造的に整っていない文で答えるほうが、むしろ相手により印象を与える場合も多いでしょう。

断るときは、文の構造より、言いよどむような話しかたや、「ちょっと」のようなことばが大きな役割を果たします。これまでは、このようなことは文の構造とは関係ないとして切り捨てられてきましたが、コミュニケーションのためには大事な文法項目です。

### 4. 母語話者の言語使用を観察する

それでは、コミュニケーションに不要な文法項目や必要な文法項目はどうしたら見つけられるのでしょうか。考えられるのは、次の3つです。

- (1) 母語話者の言語使用の観察
- (2) 既習の文法項目の習得状況の調査
- (3) 相手の感情を害する誤用例の発見

まず、(1)の「母語話者の言語使用の観察」ですが、たとえば、初級教科書の初めに出てくる「～じゃありません」という文型で考えてみましょう。

母語話者の言語使用を観察すると、話しことばでは、フォーマルなときに「～ではありません」が使われるほかは、「～じゃないです」がよく使われることがわかるはずですが、「～じゃありません」はあまり使われません。

また、「～ようです」や伝聞の「～そうです」も、話しことばではあまり使われないことがわかるはずですが。

## 5. 既習の文法項目の習得状況を調べる

文法項目の必要性を考えるために、既習の文法項目がどれくらい習得できているかを調べるのも有効です。

たとえば、初級で受身を習った人たちが、中級になって、どれくらい受身を使っているかを調べるということです。調べてみると、話すときも書くときも、ほとんど受身は使われていないという結果になると思います。

そのような結果が出た場合、「初級段階で苦勞して受身を教えてもムダだ」ということがわかります。そして、「初級では受身を使って話したり書いたりできるようにしないでよい」と割り切れるようになるはずで

## 6. 相手の感情を害する誤用例を探す

コミュニケーションに必要なけれどこれまで扱われてこなかった文法項目を見つけるには、誤用例を探すのがよいでしょう。特に相手の感情を害するようなものです。

これまでの誤用例研究は、「映画館の前に待っています」の格助詞の誤用など、文の構造にかかわるものが中心でした。しかし、そうした誤用は、相手の感情を害することはないため、それほど重視する必要はありません。

それより、「これ、いいですね」に対して「それ、いいですよ」と答える終助詞の誤用など、文の構造よりコミュニケーションにかかわるものを重視すべきです。「それ、いいですよ」と答えた人は、相手の言うことに同意して、「いい」ということを強調するために「よ」を使ったのでしょう。しかし、それを聞いた相手は、「私が最初に言ったことを無視して、自分が最初に考えたように言っている」と思い、不快に感じるかもしれません。

## 7. コミュニケーションに必要な文法を追究する

コミュニケーションに必要な文法を考えるとときに大事なことは、抽象的な文法を考えるのではなく、具体的に役に立つ文法項目を一つひとつ見つけていくことです。

そのためには、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つのコミュニケーション活動を分けて考えることが必要です。うまく話すための文法項目と、うまく読むための文法項目は、大きく違うからです。

たとえば、中級ぐらいのレベルでは、「～すればするほど」という表現は理解できたほうがよいでしょうが、使える必要はないでしょう。使おうとすると、「食べれば食べるほどお腹がいっぱいになりました」というような誤用が出てきて大変ですが、意味がわかるだけなら簡単です。

## 8. これまでの教育活動を振り返る

これまでの日本語教育では、「聞く」「話す」「読む」「書く」のどの教育活動でも、主な目的は文型や語彙の定着だったと考えられます。初級では特にそうです。

たとえば、「聞く」活動と「読む」活動では、最初に未習の文型や語彙を教え、「すべての文型や語彙がわかるはず」という状態にしてから、聞かせたり読ませたりすることが多かったと思います。聞いたものや読んだものがすべて理解できるような教育をしていたわけです。

しかし、実際のコミュニケーションではそんな状況はありません。これまでの教育活動は、構造中心のこれまでの日本語教育文法に対応したものであって、コミュニケーションを目的としたものではなかったと言えます。

## 9. これからの教育活動を検討する

コミュニケーションを目的にすると、「聞く」「話す」「読む」「書く」の教育活動はどうあるべきでしょうか。

「聞く」活動と「読む」活動では、日本語の音声や文字から必要な情報を読み取ることを中心にするべきです。わからない表現や語彙があったときに、推測したり、辞書を調べたり、無視したりする技術が重要になってきます。これからの日本語教育文法は、そのような技術に対応したものにしていかなければなりません。

また、「話す」活動と「書く」活動では、何かの目的を達成するために、音声や文字で表現することを中心にするべきです。だれにどんな目的で話すのか指定しないで自己紹介をさせたり、だれにどんな目的で書くのかわからない「私の国」のような作文を書かせても、コミュニケーション能力はつきません。これからの日本語教育文法は、「頼む」や「誘う」といった目的を持った談話や文章を作るのに役立つものにしていかなければなりません。

### コミュニケーションのための日本語教育文法に関する基本的な参考文献

- コミュニケーションのための日本語教育文法についてさらに詳しく知るには：  
野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、2005。
- これまでの日本語教科書の問題点を分析する参考に：  
新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』アルク、1999。
- コミュニケーション上の問題点を考える参考に：  
任栄哲・井出里咲子『箸とチョッカラク——ことばと文化の日韓比較』大修館書店、2004。

# 文法を楽しく!!

## 「は」と「が」(1)

通信で習った項目：「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と

今回と次回は、助詞「は」と「が」について考えます。では、まず、次のaとbの違いについて考えてみてください。

- (1) a. お金がない。  
b. お金はない。

皆さんは2つの文の違いを考えると、まず何から考えますか。「は」「が」などの文法的な働きですか。それとも、自分の感じるニュアンスの違いですか。

皆さんが2つの文(語も同じです)の違いを考えると、文法的な分析はしないで、まず、その文がどんな場面・状況で使われるか、いつ使われるのかを考えてください。

(1) の2つの文はどんな状況・場面で使うでしょうか。

例えば、あなたがレストランで食事をして、さあ、お金を払おうとしたとき、財布の中をのぞいたら…no money!!… そんなときあなたはどのように言いますか。

そうです。「お金がない」です。こういう場合は「お金はない」は使いません。

実際の会話では次のようになるでしょう。場所は「レストラン」、登場人物Aは会社員・男、Bは会社員・女で、知人同士です。

- 【会話】 A: おいしかったですね。そろそろ出しましょうか。  
B: ええ、出しましょう。  
A: (レジで) 私が払いますよ。大丈夫ですよ。  
B: そうですか。すみません。



A: あ、……。どうしよう。

B: どうしたんですか。

A: すいません、お金がないんです。

……

B: 大丈夫です。私が払いますよ。

ここで文法として言えることは、「が」は「発見」「報告」の働きをもつということです。この会話では、お金がないことを発見して、それを聞き手に報告しています。

子供のことには次のように「が」がよく現れます。

- (2) お兄ちゃんがとった。  
(3) 大ちゃんがたたいた。

子供は「が」を使うことが多いようです。「が」を使って親に報告したり、訴えたりすることが多いからでしょう。

では、次に「お金はない。」はいつ使うか、具体的な会話を考えてみましょう。

場所は「家の中」、登場人物Aは息子・高校生、Bはその母親です。

- 【会話】 A: お母さん、お金貸して。  
B: お金? 何するの。  
A: いろいろ…。  
B: だめよ。お金はないの。あなたもわかっているでしょう。  
A: うーん、でも。  
B: だめと言ったらだめです。



ここでは、「お金」は、話し手と聞き手にとっての「共通の話題」になっています。そして、「は」は「共通の話題」つまり、「主題」「トピック」を表しています。

「何／誰がどうする」「何／誰がどんなだ」などにおける「何／誰」に当たる部分を主語と言います。「お金がない」の「お金が」、「お兄ちゃんがとった」「大ちゃんがたたいた」の「お兄ちゃん」「大ちゃん」は主語になります。「お金はない」の「お金は」は、主語が共通の話題となって主題（トピック）になったものです。

では、次の2文はどうでしょうか。どういう場面・状況で使われるでしょうか。

i か ii の適切なほうを ( ) に入れてください。(答はこのページのどこかにあります)

- 練習1** : a. これがいい。( )  
b. これはいい。( )

- i 友達からおみやげに携帯電話のストラップをもらいました。小さいライトも付いています。それを見て、あなたは何と言いますか。  
ii 友達がおみやげにキーホルダーを買ってきてくれました。赤、青、黄色と3種類あるので、その中から一つ選ぶように言われました。あなたは何と言いますか。

「が」は「発見」「報告」のほかに、「主語を選ぶ」という働きがあります。練習1のaは「赤・青・黄色」のキーホルダーの中から、「これ」と言って一つ選んだことになります。bは携帯のストラップが共通の主題（トピック）になって、それについて話し手が感想を言っています。

- 練習2** : a. 空が青い。( )  
b. 空は青い。( )

- i 今日はとてもいい天気です。あなたは散歩に出かけました。ふと空を見上げたあなたは、「あー、\_\_\_\_\_なあ。」と言いました。  
ii 愛ちゃんが絵を描いています。山と花と太陽の絵です。愛ちゃんは山を緑に、花を赤に、太陽を黄色に塗りました。そして、空を茶色に塗ろうとしたとき、お母さんが言いました。「愛ちゃん、\_\_\_\_\_のよ。」

練習2 aの「が」は、「お金がない」と同じく、「発見」の働きをしています。bは、「空」という主題（トピック）について、母親が説明をしています。「は」を使

て説明するときは、「それは青い（ものだ）」というように、一般的なことや、そのもののもつ性質・状態を述べることが多いです。

では、ここで、今回出てきた「は」と「が」についてまとめてみましょう。

「は」 1. 主題（トピック）を表す。

例：私はリーと申します。どうぞよろしく  
お願ひします。  
お金はありません。

2. 一般的なこと、そのものの性質・状態を表す。

例：空は青い。地球は丸い。人間は死ぬものだ。彼女は美しい。

「が」 1. 主語を表す。

例：公園で子どもが遊んでいる。

2. 発見・報告を表す。

例：地震が起きた。バスが来た。お金がない。  
空が青い。

3. 主語を選ぶ。

例：A：どれがいいですか。

B：これ／それ／あそれがいいです。

例：A：きょうは誰が発表するんですか。

B：由田さん／あなた／私が発表します。

3の例のAは「どれ」「誰」という疑問詞を使っています。疑問詞が主語のときは、助詞は「が」が使われます。

では、次回までの宿題です。1のaとbはどう違うかを考えながら、文を完成させてください。そして、2のaとbはどんなときに使うか考えてください。

宿題

1. a. 林さんが帰るとき、\_\_\_\_\_。  
b. 林さんは帰るとき、\_\_\_\_\_。  
2. a. 今日は友達と東京へ行くつもりです。  
b. 友達と東京へ今日は行くつもりです。

参考文献

- 市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク  
松岡弘監修(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

(!!) q (!) p 2 罫線 (!) q (!! ) p 1 罫線 罫

このコーナーの担当者：市川保子（日本語国際センター客員講師）  
このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。  
「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。  
ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm> です。

語学以外の専門分野で日本語を使って  
仕事をしている外国人を紹介する

# にほんご ハローワーク

## Q1: 来日してから現在の仕事にいたるまでの経緯を教えてください。

ペンシルベニアの大学で日本語を学んだのち、1年間の交換留学生として関西外国語大学に入学しました。日本に対する最初の興味を抱いたのは小学生のときです。日本について学ぶ授業で、日本独自の掛け軸や屏風、書道などを見て、そしてエキゾチックな雰囲気憧れを抱きました。93年、長野で働きませんかという誘いを受けて、長野へやってきました。その後、新たな縁あっていまの会社である「榊一市村酒造場」に入社し、会社再構築の仕事に取り組むことになったのです。榊一は、300年近い歴史をもつ日本酒酒造会社です。そこには、古くから受け継がれてきた造り酒屋としての専門技術や職人たちの精神、蔵や日本家屋の美しさ、機能が詰まっています。私は会社から「あなたの外国人としての価値観や目線で榊一を見て、変だと思ふことがあったら教えてください」と言われ、榊一の歴史をもっと大事にする必要がある、と痛感したのです。小学生のころから憧れてきた日本独自のシンプルで美しい生活や、先人たちの知恵を21世紀に引き継ぎ、進化した形で生かすことが重要だと考え、それを会社に訴えてきました。古い酒蔵の風合いを生かしたレストラン「蔵部」はその実現例のひとつです。現在は、2006年にオープンするゲストハウス「榊一客殿」の準備や、「桶仕込み保存会」の法人化などに携わっています。桶仕込みとは昔の酒屋が用いていた技術です。これを復活させようと呼びかけたら、30社以上の企業が賛同してくれました。伝統技術の継承が、確実に収入に結

びつくような仕組みも作りたいのです。

## Q2: 日本語はどのようにして学んできましたか?

交換留学生として来日した当初は、まわりの人の言葉を聞き取ることもできませんでした。もっと勉強しなくちゃ、でも楽しく勉強しないと続かないと思い、カラオケに行き、日本語の歌を歌ったり、落語や漫才を自己流で覚えたりしてみました。当時はお金もない学生だったけど、ユーモアがあれば楽しみながら生きていける、そう思ったんです。さらに、日本人が面白いと感じることを理解できるようになりたかった。それがわかれば、背景にある社会的な状況も見えてくるはずだと考えていたんです。ほかには、ことわざ事典を買ってきて暗記しました。まわりに慣れなくて落ち込んでいた気分を励ます材料になりましたよ。また、ことわざは、伝えきれずにいた自分の気持ちをピタッと代弁してくれて、思いが通じたこともありました。

1年間の交換留学終了後、日本語能力試験の2級に合格しました。日本で働くなら、最低限それくらいは必要だと思ったんです。その後、社会人として働き始めると、いろいろな価値観、いろいろな立場の人と話す必要が出てきますよね。そうした状況も日本語の鍛錬になったと思います。とくに、榊一のある小布施町に来てからは、造り酒屋の職人はもちろん、お寺の住職や着付けの先生、建築家やアーティストなど、さまざまな人と触れ合うことになりました。小布施と深い関わりのある葛飾北斎について専門家のかたから教わったのも貴重な体験です。

## 第4回 知行合一: 日本語を活かし、考えを実現する

セーラ・マリ・カミングス (Sarah Marie Cummings) さん

榊一市村酒造場・取締役。1994年入社。96年には調酒師の認定を受け、本格的に榊一の再構築に取り組む。古い酒蔵を大改造したレストラン「蔵部」や文化サロン「小布施セッション」をプロデュースし、「小布施見」(ミニ) マラソン」を企画運営するなど小布施の町起こしにも貢献。アメリカ・ペンシルベニア州出身。



就職してからは、日本語の勉強のための勉強はしていませんが、日常的に多くの人から学んできたと思います。

## Q3: 日本語の面白さとは何だと思えますか?

最近、一番好きな言葉は「知行合一」。考えと行動はひとつのものであるべきである、という意味です。知っているのに行動を起こさないのは知ったことにならないし、行動に移すのは知ることによって完全な形にすることです。こうした昔から伝わる価値観や信念を表す言葉を知ると、現代に生きる私たちも刺激を受けますよね。強いインスピレーションを受けて、頑張る意欲が湧いてきます。漢字という、昔からある文化も面白いですね。形を見て、すぐにパッと感ずることがある。イメージが伝わりやすい。漢字を覚えることによって、より多くのことを連想できるようにもなったと思います。たくさん素直な言葉が日本にはある、それを知ること面白いです。

## 『日本語教育通信』 第54号

2006年1月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金  
日本語事業部企画調整課  
〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32  
アーク森ビル21F

The Japan Foundation  
Planning and Coordination Div.,  
Japanese - Language Dept.

(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka  
Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)  
TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498  
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力  
財団法人 国際文化交流推進協会  
Japan Association for Cultural Exchange  
(ACE Japan)

(表紙イラスト: 大石荘子) 古紙100%再生紙使用